

目的 「食事の後片づけ」は、主婦にとってイヤな作業の1つであるといわれている。食事の後片づけを、食器の運搬・洗い（すすぎ）・拭く（乾燥）・収納といった作業から分析し、主婦の意識と行動の関係を明確にすると共に、現状の後片づけ作業の問題点を探る。

方法 食事の後片づけの実態を詳細に知るために、調査を行なった。（食器洗い中心）

1) 調査サンプル — 大阪周辺に住む主婦25名（ライフステージ別・職業別）

2) 調査方法 — 個別詳細面接法

3) 調査期間 — 1982年11月上旬～12月上旬

結果 (1)朝・昼・夜といった1日の食事の後片づけを、洗い・拭く（乾燥）・収納といった観点から、6パターンに分類できる。(2)パターンの違いが生じる大きな生活背景は、主婦の家事意識と生活時間（家事の忙しさ）の違いによるものである。(3)従って、後片づけのパターンは、主婦が外出や子供の世話等で忙しくなると、容易に変化する。(4)さらに後片づけのパターンを分析した結果、後片づけに対する主婦の意識は、④きっちり派、⑤合理派 ⑥やむを得ず派の3タイプに分類できる。(5)食事の後片づけ作業は、洗濯や掃除等のその他の家事と比べて、心理的負担が大きく、主婦の家事意識と洗う・拭く（乾燥）収納するといった行動とのかかわりが深いことがわかった。(6)又、後片づけ作業の中で、拭く・収納といった行動に、さまざまな問題があることがわかった。